

編集後記

本号は中世関係の論稿を揃え、特集として組むことができた。資料訓読の成果を含めて、いずれも清新な執筆陣による。若々しい意欲を波みとって頂けるものと、いささか自負する。

国語学の分野からも二篇の力作を掲載することができた。吉野氏の論は、「上代のタメについて」（『万葉』136号）、「人妻ゆゑに——逆説に訳されるユエについて——」（同誌137号）と深く関連する。早くに原稿を頂戴しながら、本誌の発行が遅延したことをお詫びする。

本年度は、会員諸氏のご協力により、なんとか会誌の二号分刊行にこぎつけることができた。次号（三五号）も、間もなく皆様の手もとにお届けできるだろうと思う。

本誌は、会員の自発的な投稿をまっけて成ることを理想とする。あえて蛇足として記す、積極的なご投稿をお願いしたい。（駒木）

同志社国文学 第三十四号

一九九一年二月二十日 印刷

一九九一年三月一日 発行

編集 廣川勝美
駒木敏

発行 同志社大学国文学会

(代表) 玉村文郎

京都市上京区今出川通烏丸東入

振替 京都九一二七三七

印刷所 共同印刷工業株式会社

京都市右京区西院久田町